



平成27年度 第2回瀬戸内海東部カタクチワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成27年7月～8月)のポイント

(1) 概要：

シラスは大阪湾と播磨灘北西部を除いて平年を下回る。

カタクチワシ(小羽から大羽)は前年を下回る。

(2) 海域別：

紀伊水道東部のシラスは不漁であった

前年を上回るが、平年を下回る。

紀伊水道西部、播磨灘東部・南西部の

シラスは不漁であった前年並み。

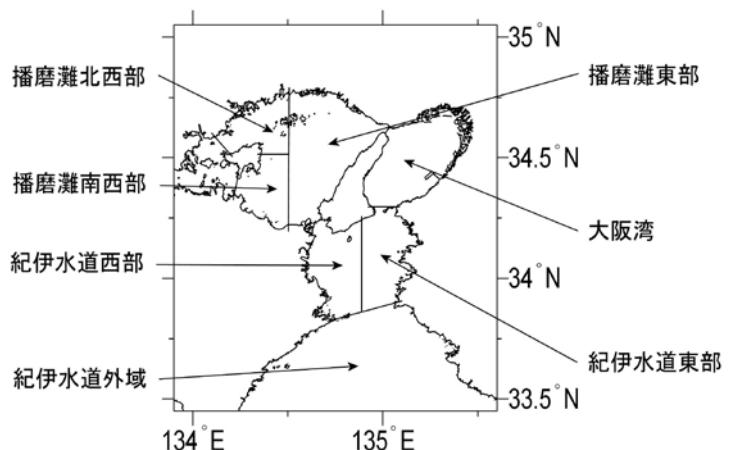
大阪湾のシラスは好漁であった前年を

下回る。カタクチワシは好漁であった

前年を下回る。

播磨灘北西部のシラスは好漁であった

前年を下回るが、平年を上回る。



問い合わせ先

国立研究開発法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所

担当：吉田、北村

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://www.fra.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>

平成27年度第2回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2015年7月～8月）

シラス（本年夏季発生群）

紀伊水道東部では不漁であった前年を上回るが、平年を下回る。

紀伊水道西部、播磨灘東部・南西部では不漁であった前年並み。

大阪湾では好漁であった前年を下回る。

播磨灘北西部では好漁であった前年を下回るが、平年を上回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～図3）、特に断りがない場合、1985年～2014年の平均値を平年値とした。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では好漁であった前年を下回る。

標本船の漁獲量を指標とし（図4）、1985年～2014年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2015年4月～6月）及び今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では5月の漁獲量は前年の37%、平年の37%であった。6月も低調に推移している。

紀伊水道西部（徳島県側）では5月の漁獲量は前年の34%、平年の23%であり、6月も低調である。

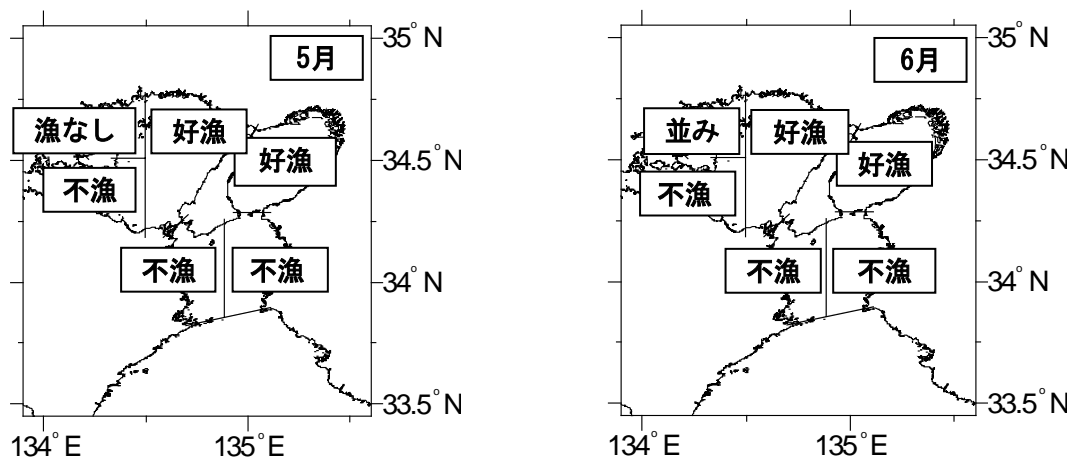
大阪湾（大阪府）では2015年の漁は前年同様、4月下旬から始まった。4月の漁獲量は前年の402%、平年の128%であった。6月上旬まで比較的好調に推移している。

大阪湾（兵庫県）では2015年の漁は前年より5日早い4月27日から始まった。4月から漁が始まったのは2009年以来であり、平年の85%であった。5月の漁獲量は前年の154%、平年の125%であり、6月上旬まで継続している。

播磨灘東部（兵庫県側）では2015年の漁は前年より4日早い5月25日から始まった。5月の漁獲量は前年の163%、平年の297%であり、6月上旬も順調に漁獲されている。

播磨灘南西部（香川県側）では2015年の漁は前年と同じ5月20日から始まった。5月の漁獲量はわずかであり、6月12日現在まで低調に推移している。

播磨灘北西部（岡山県側）では2015年の漁は前年より16日遅い6月6日から始まった。6月の漁獲量は15日現在で前年の53%、平年（2000年から2014年の平均値）の93%である。



2015年5月～6月のシラス漁況

(2) 産卵量

紀伊水道外域の東側では5月は前年の205%、平年（2005～2014年の平均値）の16%であった。紀伊水道東部では5月は前年の1076%、平年の230%であった。紀伊水道外域の西側では5月は前年の325%、平年の35%であった。紀伊水道西部では5月は前年の508%、平年の125%であった。

大阪湾では5月は前年の13%、平年の146%、6月は前年の7%、平年の67%であった。

播磨灘では6月は前年の109%、平年の354%であった（図5）。播磨灘東部では6月は前年の65%、平年の240%、播磨灘南西部で前年の98%、平年の562%、播磨灘北西部で前年の7138%、平年の393%であった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年夏季発生群）

6月19日現在、黒潮は都井岬沖と足摺岬沖でかなり離岸、室戸岬沖と潮岬で接岸している。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産総合研究センター運用の海況予測システムFRA-ROMSの予測結果を併せて考慮すると、紀伊水道沖の黒潮流路は7月下旬まで一時的にやや離岸するが、その後は接岸して推移すると予測される。

紀伊水道東部では外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。紀伊水道東部の5月の産卵量は前年、平年を上回ったものの、紀伊水道外域の東側では平年を下回った。前年は極めて不漁であり、前年の漁模様を考慮すると、不漁であった前年を上回るが、平年を下回ると考えられる。

紀伊水道西部でも外海発生群及び内海発生群が漁獲されていると推定される。7月～8月の漁獲量は6月の紀伊水道西部と播磨灘（徳島県海域）の水温が低いほど多くなる傾向があり、播磨灘（徳島県海域）よりも紀伊水道の影響が大きい（図6）。紀伊水道西部に近接している播磨灘南西部での6月の産卵量は平年を上回っているが、紀伊水道西部の水温は前年並み（前年値 -0.5°C 以上、 $+0.5^{\circ}\text{C}$ 以下）で平年より高め（平年値 $+1.0^{\circ}\text{C}$ より高く、 $+1.5^{\circ}\text{C}$ 以下）であったことから、不漁であった前年並みと予測される。

大阪湾では外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降にシラスとして漁獲されるようになる。黒潮は一時的に離岸すると予測されており、紀伊水道での漁獲量は減少傾向にあるので、今後の外海発生群の漁獲はあまり見込めない。また5月～6月の産卵状況をあわせて判断すると、好漁であった前年を下回ると予測される。

播磨灘東部では内海発生群が漁の主体であり、6月の水温が低いほど7月～8月の漁獲量が多くなる傾向がある（図7）。また明瞭でないものの、播磨灘全体の6月の産卵量が多いほど7月～8月の漁獲量が多くなる傾向がある（図7）。播磨灘全体での6月の産卵量は前年並みで平年を上回っているが（図5）、水温が前年、平年を上回っていることから、不漁であった前年並みと予測される（図8）。

播磨灘南西部も内海発生群が漁の主体である。5月～6月の漁は低調である。6月の卵稚仔密度は前年同様平年を上回っているが、餌料環境が良くないと判断されることから、不漁であった前年並みと考えられる。

播磨灘北西部も内海発生群が漁の主体である。6月の漁獲量は前年並みであるが、産卵量は前年、平年を上回っている。前年の漁獲量は過去最高であり、現在までの漁況と産卵状況から判断すると好漁であった前年を下回るが、平年を上回ると考えられる。

カタクチイワシ（小羽から大羽）

大阪湾では漁期当初に前年発生の子1歳魚、その後は2015年の春シラス漁で漁獲の対象となった0歳魚が小・中羽として漁獲される。大阪湾における産卵量から判断すると大阪湾に滞留している1歳魚は前年ほど多くないと考えられる。また2015年の春シラスの漁況をあわせて判断すると好漁であった前年を下回ると考えられる。

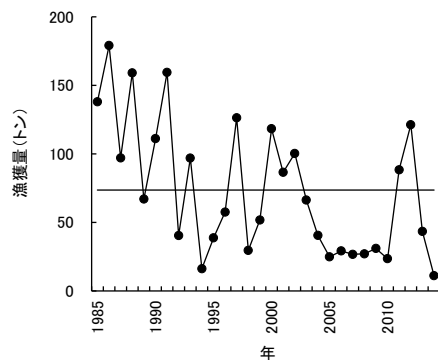
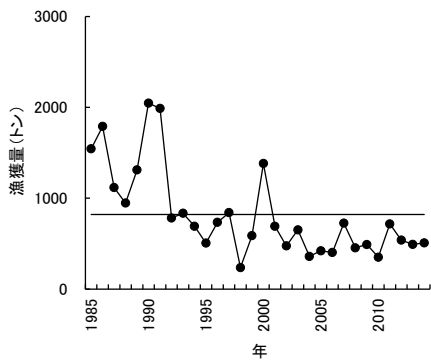


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は平年値）

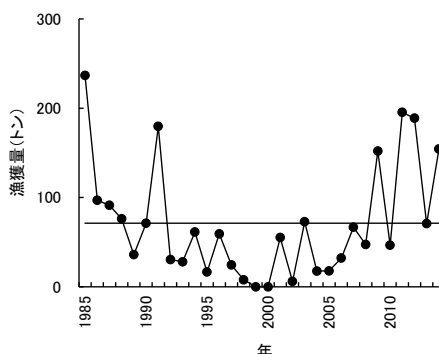
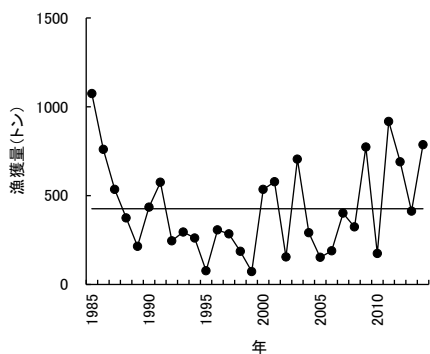


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は平年値）

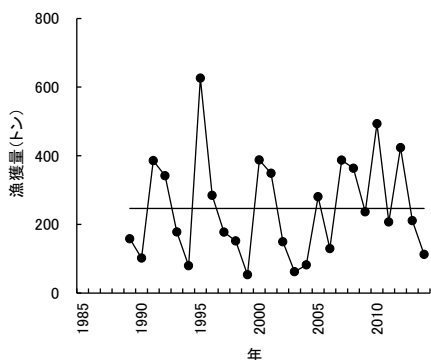
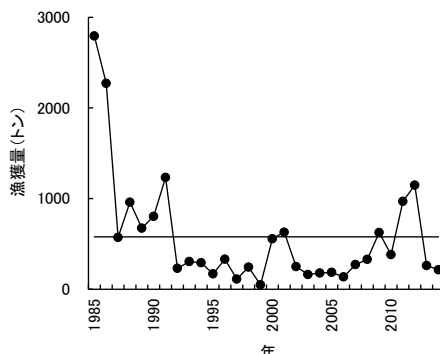
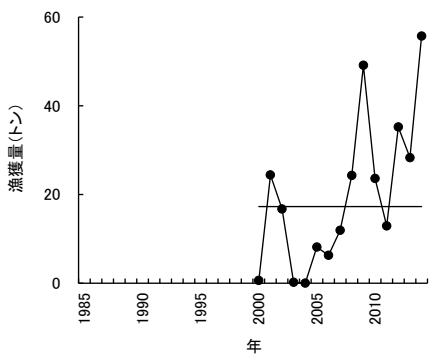


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における7月～8月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量（実線は平年値）

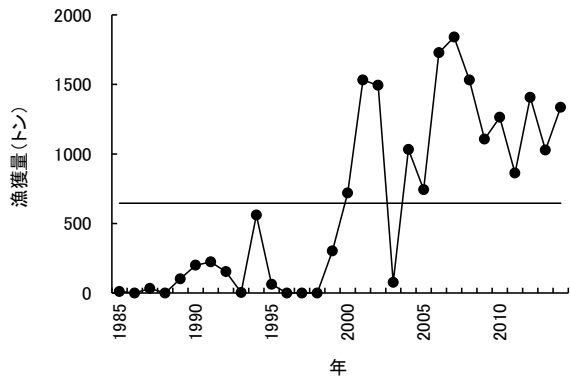


図4 大阪湾の標本船における7月～8月のカタクチイワシ漁獲量（実線は平年値）

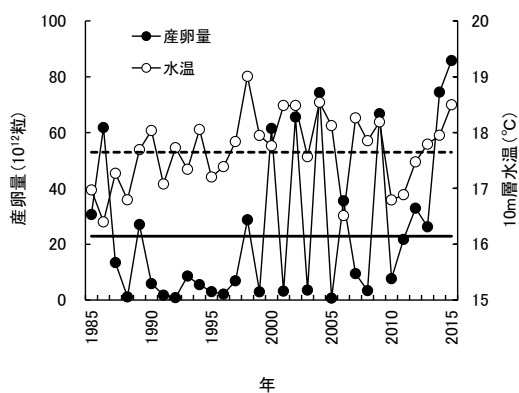


図5 播磨灘における6月の産卵量と10m層水温（実線は産卵量、点線は10m層水温の平年値）

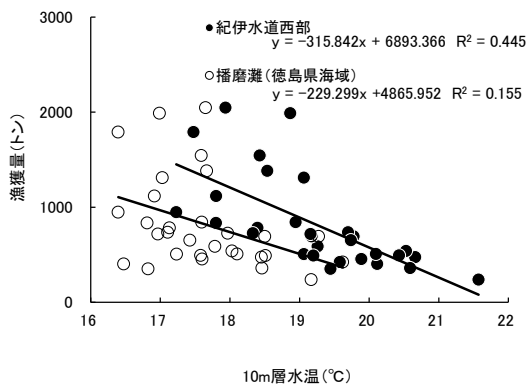


図6 紀伊水道西部・播磨灘（徳島県海域）における6月の10m層水温と紀伊水道西部の標本漁協におけるシラス漁獲量の関係

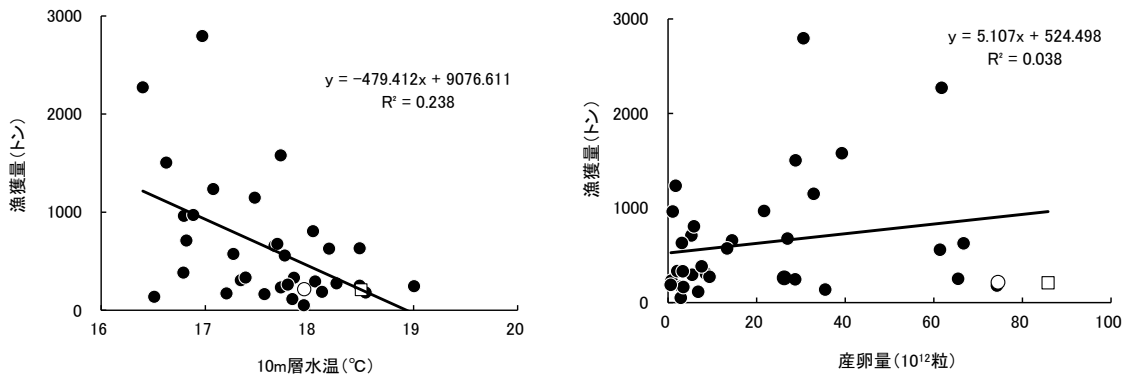


図7 播磨灘における6月の10m層水温と播磨灘東部における標本漁協のシラス漁獲量の関係（左図）及び6月の産卵量と標本漁協のシラス漁獲量の関係（右図）

使用したデータは1981年～2014年、○は2014年漁獲量、□は2015年予測値（2015年予測値は産卵量と水温をパラメータとした重回帰分析から求めているため、必ずしも両図の回帰直線上にない）

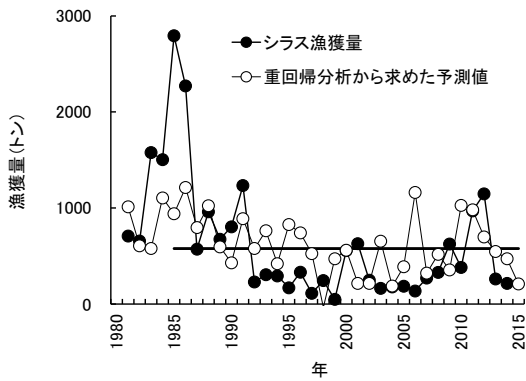


図8 播磨灘東部の標本漁協における7月～8月のシラス漁獲量と重回帰分析から求めた漁獲量予測値（実線は平年値）

参 画 機 関

和歌山県水産試験場	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課
地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター	国立研究開発法人 水産総合研究センター 中央水産研究所
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所
岡山県農林水産総合センター水産研究所	
香川県水産試験場	